
孤独

春桜

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

孤独

【Nコード】

N6828L

【作者名】

春桜

【あらすじ】

人の辛いこと、それは孤独だ。

行く道は、いつも幸せではないのだ。

しかし、人は辛くても生命を受ければ生きる義務がある。

いつから独りなんだろう。覚えていない。

いつも独りこの灰の土の上を歩いた。

着いてくるものもない。すれ違うものもない。

でも、平等にあるものがあるのだ。

だれかきつと同じ空を見ている。そう思うのだ。

そうすると、空を見上げて歩いた。

ひたすらに。ただただ仲間を求めて。嬉しさを求めて。

ここに時間もなにも存在しない。腹も減らないし、眠たくもならない。

ただ夜のままだ。きっと我への罪なのだろう。それでもいい。罪は
うける。

さすがに生まれてからずっと歩いていると、思いにふける。

どうして、生まれてきたのか、我と同じ人間はいるのかとか。

絶望もいいとこだ。

歩いて、歩いて。仲間見つからなかったらどうすればいいのだろう。

生きる意味などあるのだろうか。死んだほうが楽かもしれない。

そんな時。

「人か．．．。」

「！」

後ろから声がした。振り返ると人ではないなにかが見える。黒く体
のような原型はある。目もあるのだ。しかし、違う。人ではない。

「あなたは．．．？」

「わしはこの世界に墜ちた人だったものだ。今はただの弱者の残骸だ。」

弱者の残骸．．．？

「貴公、何故生きているのだ？」

「どういう．．．。」

彼は潰れたような金色に光る目をギラギラさせてこちらを見る。

「ここには貴公のような人はいてはならない。どこかへ消えろ。」

せつかく会話できたのに。人でなくとも会話したのは初めてだ。しかし彼は拒絶する。最後まで我を独りにする。

「我はここで生まれた。自分が生まれたこの場所でいてなにが悪い！」

怒りの声を上げてしまう。

「そうか。しかし、人には会えなかっただろう。ずっと、独りだったのだろう。人が一番辛いのは孤独であることだ。貴公がよければ、我々の仲間にならぬか？」

「えっ．．．．．？」

仲間？？な、かま．．．。

「貴公をこの世界にあげてしまったのは我々の罪だ。償いといえるのかわからないが貴公を独りにしないよ。」

嬉しかった。生きる意味ができた。そうだ。できたんだ。

我はもう「独りじゃない」！！

これが悲しみの始まりだとも気付かなず、彼は喜びに満ちていた。未来という絶望の刃をつきつけられても。

（後書き）

シリアスな話が好きです。参考はブリーチのアランカルさんたち。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n6828/>

孤独

2010年10月10日20時37分発行